

	質問	回答
1	校舎外にボールが出ないようなボール除け・ネットなど計画の方向性を教えてほしい。また、ネットやその支柱が受ける風と発生する影の影響はどうか。	防球ネットは、グラウンドを囲うように配置することを検討しています。フェンスは、必要な部分に設置するよう計画します。詳細は実施設計の中で決定します。風への影響は、防球ネットなどに対する耐風圧の確認を行いながら進めています。影の影響は、ネットを支えるための支柱を設置しますが、そこまで太い柱ではありません。
2	屋外体育倉庫はどの程度の高さになるか。現在の仮囲いと同程度の高さか。	高さは、約3.5m程度を想定しており、詳細設計の中で具体的な高さを決定します。現在の仮囲い高さは約3mとなります。現在の仮囲いの位置（敷地の際）に屋外体育倉庫を建てるわけではなく、植栽帯を挟み距離をとった位置となります。敷地境界沿いには緑地帯だけでなく、安全対策として防球ネットとフェンスを設置します。
3	敷地北西側の通用門は改築後も残す形となるのか。	日常的な利用ではなく、救急車などの緊急用車両の出入口として門扉を計画しています。
4	敷地北側の私道は、通りから視線が通らないため、通りからの視認性に配慮して計画を進めてほしい。	死角にならないよう配慮しながら、詳細設計を進めます。
5	旧校舎の基礎コンクリート部分の撤去についてのスケジュールはどのようになるか。旧校舎の解体時、私道側やがけ地側の住民は音や振動に対して影響を受けているため、基礎を全て撤去するのか確認したい。	がけ地対策工事の際、旧校舎の基礎で干渉する部分は、一部撤去する予定です。また、新校舎改築工事を進める中でグラウンド整備に影響ある範囲を追加で撤去します。解体工事を伴う部分もあり、工事前にはご案内しながら振動・騒音に対し、より丁寧な対応を行います。
6	不審者などへの安全対策について、どう考えているか。朝、正門は常に開放されているか。	正門・南門でセキュリティができます。登校時の正門は、常に開放されており、先生が迎え入れる形となります。運営面について関係所管と相談しながら対応していきます。また、第三者が入りづらい計画とすることや、防犯カメラなどの設置などを行います。現状北区の学校では、正門に、モニター付きインターホンと電気錠を整備しており、十条小も同様の対応を行います。朝に学校の先生方が正門で見守るといった活動は、学校ごとで対応が異なるため、今回のようなご意見があったことは、学校側にも意見内容を伝えておきます。